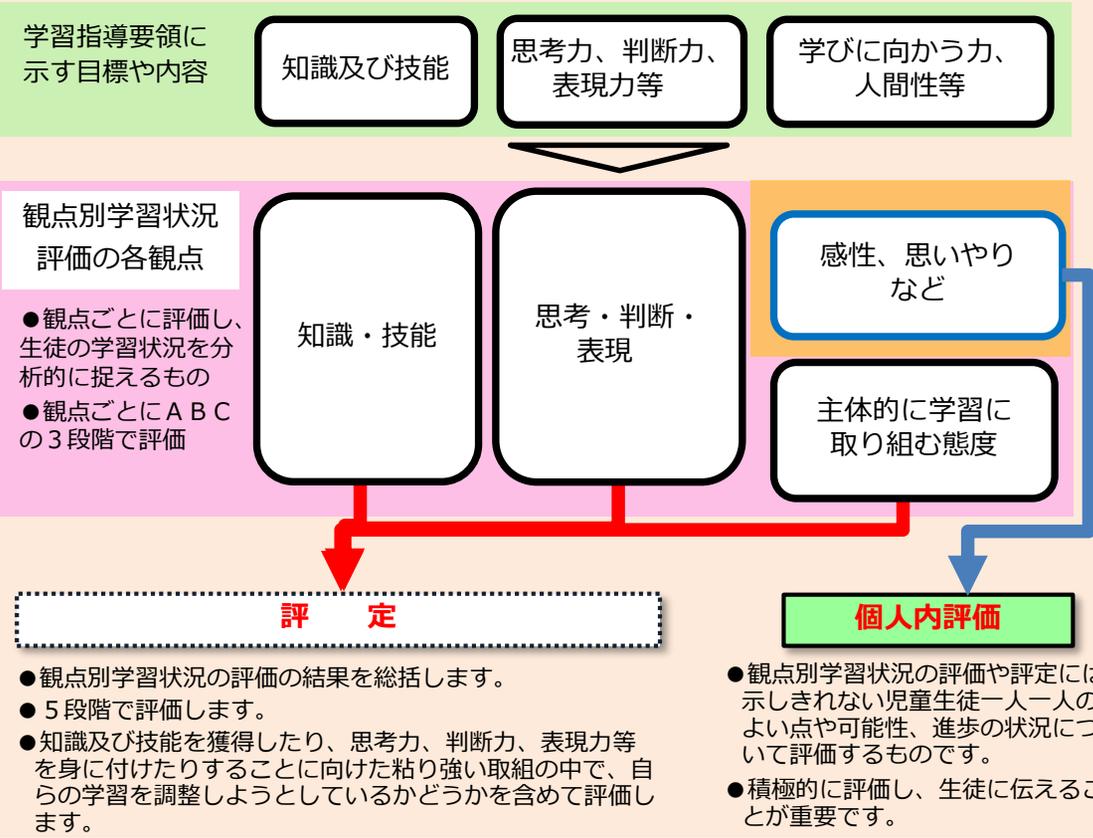


▼学習評価の基本構造

<参考> 文部科学省「児童生徒の学習評価の在り方(報告)」
 平成31年1月21日 文部科学省



▼評価の観点と趣旨 (福祉)

1. 教科の目標と「評価の観点と及びその趣旨」との対応関係を**確認**する (福祉)

【参照 P.30】

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
福祉の各分野について体系的・系統的に <u>理解している</u> とともに、関連する技術を <u>身に付けている</u> 。	福祉に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を <u>身に付けている</u> 。	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を <u>身に付けている</u> 。

2. 科目の目標に対する「評価の観点と趣旨」を**作成**する (社会福祉基礎(例))

【参照 P.31】

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会福祉について体系的・系統的に <u>理解している</u> とともに、関連する技術を <u>身に付けている</u> 。	社会福祉の展開に関する課題を <u>発見し</u> 、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。	健全で持続的な社会の構築を目指して自ら学び、福祉社会の創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を <u>身に付けている</u> 。

3. 「〔指導項目〕ごとの評価規準」を**作成**する (社会福祉基礎 (1)社会福祉の理念と意義(例))

① 各科目における〔指導項目〕と「評価の観点」との関係を確認する。 【参照 P.32~】

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「〔指導項目〕ごとの評価規準」を作成する。

【観点ごとのポイント】

- 「知識・技術」については、学習指導要領解説の〔指導項目〕の大項目ごとに示された④を参考に、「知識」については、その文末を「理解すること」から「～について理解している」と変え、「技術」については、その文末を「身に付けること」から「～について身に付けている」と変える。
- 「思考・判断・表現」については、学習指導要領解説の〔指導項目〕の大項目に示された②を参考に、その文末を「～に関する課題を発見し、解決すること」から「～に関する課題を発見し、解決している」と変える。
- 「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領解説の〔指導項目〕の大項目ごとに示された③を参考に、その文末を「～について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと」から「～について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる」と変える。

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や自立の概念、日常生活と福祉、社会福祉理念の変遷などについて <u>理解している</u> とともに、関連する技術を <u>身に付けている</u> 。	社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などに関する課題を <u>発見し</u> 、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に <u>解決している</u> 。	社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などについて自ら学び、主体的かつ協働的に <u>取り組もうとしている</u> 。

4. 「単元の評価規準」、「指導と評価の計画」を**作成**して評価を実施する(裏面)

【参照 P.37~】

▼観点別学習状況の評価の観点の整理

<平成21年改定>

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解

<平成30年改定>

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

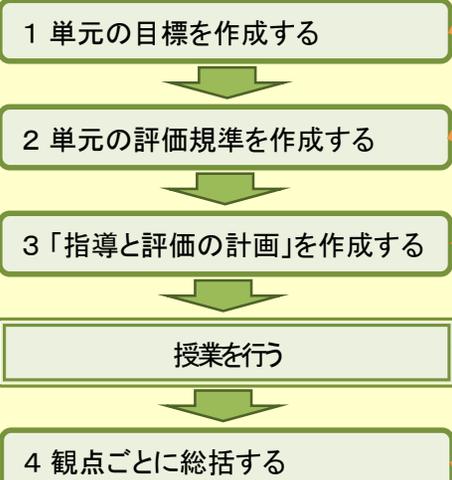
専門教科は「知識・技術」

学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科等における観点別学習状況の評価の観点も3観点到整理されました。

指導と評価の計画【例】 (高等学校福祉科)

<参考> 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
 国立教育政策研究所 教育課程研究センター (令和3年8月)

評価の進め方 【参照 P.37~】



*【指導項目】を基に、単元全体を通して、単元の目標を作成する。

*各学校等で作成した「【指導項目】ごとの評価規準」を基に、具体的な学習活動から目指すべき学習状況としての生徒の姿を想定し、単元の評価規準を作成する。

*単元の目標及び評価規準を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
 *どのような評価資料(生徒の反応やノート、ワークシート、作品等)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。

*指導と評価の計画に沿って観点別学習状況の評価を行い、生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる。

*集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括評価(A、B、C)を行う。

福祉科 事例1 (社会福祉基礎) 【参照 P.42~】
 キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで、「主体的に学習に取り組む態度」の評価

単元名 社会福祉の理念と意義	【指導項目】 (1) 社会福祉の理念と意義 ア 生活と福祉 イ 福祉社会の理念 ウ 人間の尊厳と自立
-------------------	--

単元を構成する指導項目を明記する。

本単元では、社会福祉の理念と意義に関する知識及び技術を身に付けるとともに、私たちの生活と社会福祉の考え方や、尊厳の保持や自立生活に関する実践的な態度を育成することを目的とする。

*単元の検討

単元とは、生徒に指導する際の内容や時間のまとまりを各学校の実態に応じて適切に構成したもの。各校において福祉の科目を設置した目的を踏まえ、生徒や地域の実態、学科の特色に応じて適切に単元を設定する。

- 単元(1) 社会福祉の理念と意義について理解するとともに、社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。
- 単元(2) 社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。
- 単元(3) 社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組む。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や自立の概念、日常生活と福祉、社会福祉理念の変遷などについて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。	社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	社会福祉の理念や意義、尊厳の保持や自立支援などについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

3 指導と評価の計画 (13時間)

時間	【ねらい】・学習活動	評価		備考(評価規準・評価方法)
		観点	記録	
ア(1) 少子高齢化と人口減少社会の到来 【ねらい】 少子高齢社会と人口減少社会について理解を深め、その課題について考察する。				
1. 2.	<ul style="list-style-type: none"> ワーク1 「日本の人口変動とその背景」について、教科書の記述及び総務省の統計資料(「出生数と合計特殊出生率」、「平均初婚年齢」、「生涯未婚率」)から理解した内容を記入する。また、定期考査の評価問題に解答する。 課題1 「少子高齢化の進行に関連した課題」について考察した内容を記入する。 まとめ1 「少子高齢社会において必要なサービスとその理由」についてグループで話し合った内容をまとめ、発表する。 	知 思 態	○ ○ ○	・少子高齢社会の進行とその背景について理解を深め、その課題について考察する。 ○印【評定に用いる評価】観点別学習状況の評価を記録し、総括の後、評定のための資料として用いることを想定している。 ワークシート 定期考査 ・少子高齢社会において必要なサービスとその理由について協働的に学び合おうとしている。 ワークシート
ア(2) 地域社会の変化 【ねらい】 地域の課題について考察する。				
3.	<ul style="list-style-type: none"> 空白【学習改善につなげる評価】机間指導や話し合いの様子、ワークシートの活用等、学習の過程で生徒の状況を把握したり、確認したりすることを通して、学習改善につなげる場面を示している。 課題2 「高齢者の課題とその解決方法」についてグループで話し合った内容をまとめ、発表する。 	知 態	○ ○	・都市化、過疎化及び市町村合併の課題について理解し、適切に記述している。 ワークシート 定期考査 ・商店街の現状に着目し、課題とその解決方法について協働的に学び合おうとしている。 ワークシート
ア(3) 生活の変化 【ねらい】 家族の多様化及び女性の職場進出について理解を深め、関連するサービスについて考察する。				
4. 5.	<ul style="list-style-type: none"> ワーク3 「わが国の世帯人員の変化及び家族の多様化」について、教科書の記述及び統計資料(「平均世帯人員と世帯数」)から理解した内容を記入する。 	知	○	・わが国の世帯人員の変化と家族の多様化について理解を深め、関連するサービスについて考察する。

各観点別評価において、生徒の学習状況を確認し、目標が達成できていない場合は、指導の改善や修正を図る。評価を行う際には、生徒の取組のよいところを積極的に評価することで、学ぶ意義や価値を実感できるよう努める。

4 観点別学習状況の評価の進め方

- 知識・技能
個別の知識に留まらず、概念的な知識が理解できているかを評価する。
- 思考・判断・表現
各時の学習課題に対して「福祉的な見方・考え方」を働かせて、課題の設定、構想、考察、表現ができているかを確認する。
- 主体的に学習に取り組む態度=学習した内容や関連する事柄について、関心を持つだけでなく、自らの学習や生活に生かそうと意欲を持って取り組む態度。
自らの学習を調整しようとする側面と粘り強く取り組もうとする側面の評価を行う。

5 観点別学習状況の評価の総括